



鈴木まもる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

早急に排水機場改修を

市川市内、軒並み老朽化

人々が安心して住めるふるさと市川市の街づくりの力を注いでいる鈴木衛県議は、9月定例会県議会で登壇し、治水対策や交通安全、北千葉道路(仮称)押切橋について熊谷俊人知事ら県執行部に質問しました。治水問題では市川市内の排水機場の老朽化問題を取り上げ、人命に関わる甚大な浸水被害を防ぐために早急な改修を要望しました。また(仮称)押切橋の架橋を強力に推進して欲しいという鈴木県議の質問に、県担当者は年内に東京都との基本協定締結を目指していることを明らかにしました。鈴木議員の質問と熊谷知事らの答弁を紹介します。



登壇し、一般質問を行う鈴木衛県議

9月定例会県議会一般質問

鈴木議員 地球温暖化に伴う気候変動の影響により、台風の大規模化や異常な集中豪雨の増加がもたらす自然災害のリスクが、年々高まっている状況にあります。

県内でも令和3年3月13日に突発的な豪雨がありましたが、私の地元である市川市内では、一時的に時間雨量50ミリを超える猛烈な雨が降り、多くの場所で内水氾濫による浸水被害が発生しました。また、外環道路の一部も冠水し、広域

的な道路交通網にも影響を及ぼしております。市川市をはじめとする葛南地域は、東京湾に面し、江戸川や真間川などの下流域に広がる低地に、人口や産業が集積した密集市街地が形成されているという地域特性があることから、雨水を強制的に排水して内水の氾濫を防ぐ市川市・葛南地域における「排水機場」の果たす役割には非常に大きいものがあります。葛南地域の中でも特に市

川市内には、国が排水機場が多数設置されており、施設の老朽化対策が課題となつております。

令和3年7月には、国が管理する根本排水機場の老朽化対策の早期実施について、市川市長が直接、国土交通省へ要望したと聞いています。

また、市川市でも多くの排水機場を管理していますが、順次、施設の長寿命化に取り組んでいることと、残る県の排水機場ですが、市川市内には、真間川排水機場、林川排水機場、中江川排水機場、湊排水機場、猫実排水機場など、県の施設が数多くあります。

これらの中には設置から40年以上も経過した施設があり、建屋や機械・電気設備などが全体的に老朽化しています。排水機場の耐用年数として、例えば機械設

備のポンプ本体が20年、電気設備の動力制御盤が15年、鉄筋コンクリート造の建屋の躯体でも50年とされている中で、既に耐用年数を過ぎていく設備があることは問題です。

平成30年に台風が接近した際には、中江川排水機場のポンプ1台の故障が発覚したため、県が仮設ポンプを準備するとともに、国から排水ポンプ車を借りて対応したと聞きました。

また、この排水機場の維持管理を県が市川市に委託しているようですが、除塵機の設備が無いため、降雨時には流入したゴミを人力作業で掻き揚げて取り除く必要がある、作業に大きな危険が伴うという問題点もあるとのこと。

本県では、排水機場などの

の河川管理施設の長寿命化計画を策定し、施設の点検・整備・更新などを実施していくとされていますが、県内には施設数も多く、整備・更新には相当の時間が掛かると思われます。

葛南地域の特性を考えますと、台風による大雨や高潮などの際に、排水機場の設備が十分に機能しない場合、人命に関わる甚大な浸水被害と社会経済活動への深刻な影響が懸念されることから、危機感を持って老朽化した施設の改修を早急に進める必要があると考えます。

そこでお聞きしますが、市川市域における県の排水機場の老朽化対策について、進捗状況はどうか。また、県は今後どのように老朽化対策に取り組んでいくのか。

県土整備部長 県管理の排水機場については、定期点検等により各施設の状態を適宜把握しながら信頼性の確保に努めています。また、健全度や重要度等を踏まえ策定した長寿命化計画に基づき、市川市域にある8つの排水機場においても、順次整備・更新を進めており、今年度は、真間川排水機場の除塵機更新工事、中江川排水機場のポンプ駆動設備更新工事などを実施する予定です。

今後とも、県民の生命・財産を守るため、老朽化対

8機場を順次、整備・更新

策を着実に進め、浸水被害の軽減に取り組んでまいります。

鈴木まもる県議プロフィール

■ 略 歴 ■

- 昭和26年 市川市若宮生まれ
- 私立市川高校卒業
- 専修大学文学部中退
- 市川市議会議員当選 (4期)
- 市川市議会議員
- 千葉県議会議員当選 (4期)

■ 現 職 ■

- 県議会 決算審査特別委員会委員長
- 環境生活警察常任委員会委員
- 千葉県競馬組合議会議員
- 自民党 令和元年災害対策プロジェクト座長
- 北千葉道路建設促進議員連盟副会長

都市づくり、地域づくりのご意見、ご提言をお寄せください。

鈴木まもる 県議事務所 〒272-0021 市川市八幡3-29-20 秋葉ビル3F
TEL 047-333-6000 FAX 047-322-3232

鈴木まもるホームページ = <http://www.suzukimamoru.com>



老朽化が目立つ中江川排水機場

耐用年数、大きく超過 県管理の排水機場

再質問

鈴木議員 県が管理する5カ所の排水機場もすでに耐用年数を大幅に過ぎて故障する等の事象が発生しており予断を許さない状況です。

本県では河川管理施設の長寿命化計画を策定し、施設の更新等を実施していくとしていますが、県内には施設数が多く更新には相当の時間を要すると言われて

います。

台風の大雨や高潮などの際に排水機場の施設が十分に機能しない場合、甚大な被害が懸念されるため早急な改善が必要であると思

います。

そのような中、今年の激甚化する降雨量による災害状況を見れば、内水氾濫等も含めてスピーディーな対

台風や高潮で被害懸念

応が肝要と思います。千葉県においても、令和元年の台風による甚大な被害は、記憶に新しいところです。

熊谷知事は6月補正予算の際、災害に強い県づくりに向けて積極的に予算を配分したと言います。また危機事案にはスピード感を持って対応すると示しました。

市川市における県管理の排水機場は流域最下流に位置し、市川市南部の低地帯に注いでいます。県配水機場の点在する、行徳、信篤地区は災害リスクの高いところに、28万人を超える住民が生活しています。

県管理の排水機場の老朽化対策にスピーディーに取り組むべきと思うかどうか。再質問いたします。

県土整備部長 近年、水災害が激甚化・頻発化しており、排水機場の機能を常に適切に確保していくことが必要であることから、国土強靱化5か年加速化対策の予算も活用しながら、引き続き、老朽化対策を着実に進めてまいります。

鈴木議員 耐震対策を早期に進めるとともに河川改修の早期完成、排水機場の適切な維持管理を進めていただくようお願いいたします。

県管理の排水機場施設設備は耐用年数を過ぎ、老朽化も著しく、もし排水機場の施設が機能しない場合は人命に係る深刻な問題です。早急な更新が必要であるのと思うので、強く要望します。

危険潜むバス停留所

国交省調査 県内に426カ所



議場の自席で、県の施策に要望を行う鈴木県議

鈴木議員 交通安全については、県民が安全で安心して暮らせる千葉県を実現するため、私は今までも議会で質問、提案してきました。その一つとして、「千葉県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を自民党の議員発議をし、条例化しました。しかしながら千葉県は全国的に見ると交通事故の発生が多い状況が続いています。関係者の努力むなしく、令和元年では交通事故死者数が初の全国ワーストとなりました。

飲酒運転につきましては、県内今年上半年の検挙件数が前年度比83件増の586件に上がり、2016年以降で最多となり県民の飲酒運転に対する関心は高まっております。撲滅に向け関係機関と連携して一層の取り締まりの強化をお願いいたします。

さて、今般はバス停留所の見直しについてかがいまして、国土交通省の調査で全国1万カ所を超えることが判明したいわゆる危険なバス停留場の安全対策が本格化して

警察本部長 県内合計426カ所のバス停留所について、国土交通省関東運輸局千葉運輸支局、県内バス事業者、県警、各市町村が連携し、バス停留所と横断歩道の距離を5メートル以上確保することを原則として、まず、バス停留所の移設・廃止、次に横断歩道の移設・撤去、次に横断防止柵の設置や注意喚起対策の順に安全対策の検討を進めています。

令和3年8月27日までに7カ所のバス停留所についてバス事業者により移設を完

了し、千葉運輸支局から合同検討会に報告の上、公表されたところであり、今後適宜合同検討会に報告されるものと承知しております。

県警といたしましては、横断歩道の移設・撤去や個々のバス停留所の安全対策を検討する際には、県警本部と各警察署が緊密に連携し、利用者のご理解を得ながら、バス停留所の安全性の向上に努めていくことが重要であると考えております。併せて、本取組とともに

交通安全教育や「ゼブラ・ストップ」を引き続き推進し、歩行者保護意識の更なる醸成を図ってまいりたいと考えております。

鈴木議員 危険性の除去について対策が進んでいるとのことでしたが、1件でも交通事故を防ぐため、バス停留所の移設、横断歩道の移設、道路環境の改善などについて、早急に、かつ、近隣の方々のご意見・ご要望も踏まえながら適切に対応していただくよう、強く要望します。

赤羽国土交通大臣は、3月30日閣議後の記者会見で安全対策の進捗をフォローし、バス事業者らへの指導や助言を行う考えを示しました。対策が必要なバス停止とはバス停止と横断歩道または交差点が近いなどの状況からバスで死角が生じ、交通事故を誘発する恐れがあるもので、国土交通省による調査で、全国1万195カ所と判明しています。

こうした場所では、バスの車体が視界を塞ぎ、横断歩道を渡る歩行者が後続車や対向車から見えにくく、接触事故や死亡事故も発生する可能性が非常に高いと考えられます。

国土交通省の公表によれば、本県では、バスの車体が横断歩道にかかるなど危険度が高く改善すべきバス停止については早急に対策を講じなければなりません。そこでうかがいます。現在までの千葉県の進捗状況はどうか。また、今後バス停留所安全性確保対策はどのように進めていくのか。

バス停留所と横断歩道 距離5メートル以上を原則に

要望

鈴木議員 危険性の除去について対策が進んでいるとのことでしたが、1件でも交通事故を防ぐため、バス停留所の移設、横断歩道の移設、道路環境の改善などについて、早急に、かつ、近隣の方々のご意見・ご要望も踏まえながら適切に対応していただくよう、強く要望します。

北千葉道路市川ー松戸間が事業化

使命感と不退転の決意で

スムーズな事業進捗へ要望



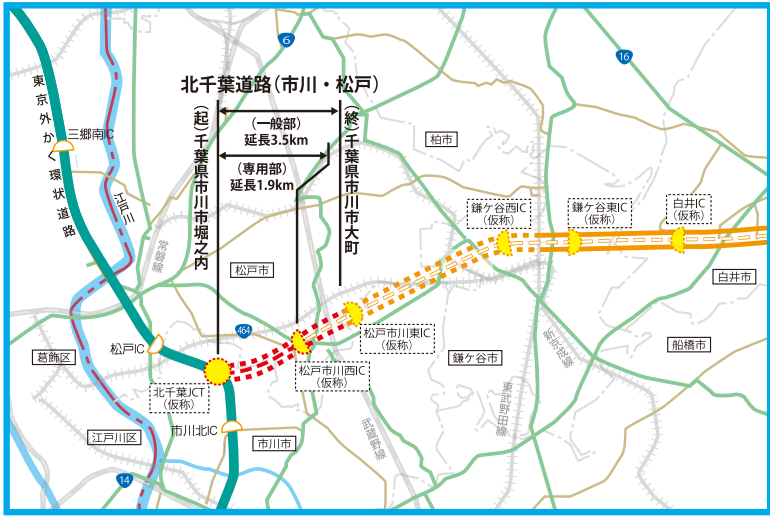
白井市内の北千葉道路。北総線と併走する。

鈴木議員 広域的な幹線道路ネットワークの整備は単に交通の円滑化という表面的な効果にとどまらず経済的活性化等、都市の広域的な経済活動を支える重要な都市インフラストラクチャーとしての機能を有しています。

特に、首都圏北部と千葉ニュータウンを経由して成田空港とを直結する北千葉道路は「国際競争力の強化」や「都市間の高速移動」さらには「観光・物流の活性化」、「災害時の緊急輸送ネットワークの強化」、「周辺道路の渋滞緩和」等、効果を上げれば枚挙にいとまがありません。広域幹線道路整備後の実体験となりますが、先の外郭環状道路の開通におきましても私の地元、市川地域におきましては、周辺道路の渋滞緩和等、日々の生活の中で如実に効果を体感しているところです。

こうした、北千葉道路ですが、その事業の歴史は今から半世紀ほど前の昭和40年代前半にさかのぼります。まず市川市と印旛村(現印西市)間(約32.5km)が都市計画決定され、その後成田空港への延伸構想が浮上し、平成17年には印旛と成田間の都市計画決定を行い、そして最近では、令和2年度末に、未整備の市川市と鎌ヶ谷市間の約9.5kmを含む市川市から船橋市間の約15.5kmについて、都市計画変更や環境アセスメントの手續きを完了させました。まさに昭和から平成、令和へと三つの時代をまたぐ事業の歴史があります。

こうした北千葉道路ですが、大変喜ばしいことに、直近では市川・松戸の専用部19.5km、一般部3.5kmについて国の新規事業として調査費270億円、用地補償費24.8億円、工事費138.2億円の



総事業費1900億円として令和3年度から事業化され、既に事業初年度の予算も確保されたとうかがっています。ご尽力いただきました関係者の皆様方には、改めて敬意を表し心から感謝申し上げます。しかしながら、現在の社会情勢に目を向けますれば、未曾有のコロナ禍の中、円滑に事業を促進させるためには、多くの課題もあろうかと存じます。そこであらうかと思いますが、北千葉道路の新規事業化された市川・松戸の事業促進に向けて、どのように取り組んでいるのか。

県、国への協力体制整備

知事 北千葉道路は、外環道と成田空港を最短で結び、首都圏の国際競争力を強化するとともに、災害時における緊急輸送道路としての機能する大変重要な道路です。

今年度事業着手された北千葉道路の市川・松戸については、現在、国において測量などが進められているところであり、県では、今

後事業を進める上で必要となる関係機関との協議や地元調整、用地取得などを円滑に進めていくための協力体制の整備に向けて、国や沿線市とともに検討を進めているところです。

引き続き、市川・松戸の早期整備に向け、沿線市と連携して取り組んでまいります。

要望 鈴木議員 先の議会におきましても、知事から北千葉道路の早期開通等、県内の道路公共交通ネットワークの充実を図るとの心強いご答弁をいただきました。また、県と関係する7市等で構成される北千葉道路建設促進期成同盟会ではこれまで国土交通省や財務省をはじめ、関係機関に対し事業促進や予算の確保等、活発な要望活動を実施しているところです。

今回新たに事業化された市川市・松戸市区間も含めまして、令和3年度以降、次のステップへ滞りなく、切れ目のないスケジュールで事業が図られるよう取り組んでいきたいと存じます。実現に向けて、使命感と不退転の決意をもって速やかに進めていただきますよう強く要望いたします。

次のステップへ滞りなく

知事

「早期の事業着手目指す」

鈴木議員 これまでの本議会におきましても、幾度か（仮称）押切橋につきましても質問をしました。

これまで市街化が急速に発展してきた地域でございまして、人口も49万人と県内でもトップクラスとなっております。

この橋梁が計画されております市川市は、都心から全区域が20キロ圏内とそのポテンシャルの高さからも、

周辺には多くの幹線道路が配置され、これらとも接続が容易なことから、地域の発集交通に加え通過交通も

非常に多く朝晩の交通渋滞のみならず一日中交通混雑が絶えないというのがその実態です。

しかしながら、江戸川と旧江戸川の都県境区間では市川橋から今井橋まで約8キロに渡り一般道路の橋梁

がありません。このことは、首都圏の人口集中地区における直轄河川において、橋梁の設置間隔が最長の区間でありまして、他事例をあげると、神奈川と東京都間の多摩川におきましての橋梁間隔は、約2.5キロです。

こうしたことから、新たな橋梁として（仮称）押切橋を整備し周辺の渋滞解消や隣接都県との交流連携の活性化により商業や物流施設の利便性の向上を図ろうとするものです。

これまでも、私が特に早急に当該橋梁の整備をお願いする背景にはこうした橋梁の整備により、多くの効果が期待されることほもとよりではありませんが、背景には歴史の災害に学ぶところを感じているからです。

江戸の歴史を振り返れば、江戸幕府は防備の面から隅田川への架橋は千住大橋以外認めてきませんでした。こうした中、1657年明暦の大火の際に隅田川河岸

まで避難してきた江戸市民の多くが、橋梁が無いことから逃げ場を失い、火勢にのまれ、10万人に及ぶ死者を出したという歴史が強く私の心に残っているからです。こうした事態を重く見た江戸幕府は防火、防災目的のため両国橋の架橋を決定することとなったというくだりです。

当該地域は、地震や津波のハザードマップ等を見ましても、まさにこの歴史に学ぶべき地域になりうる状況ではないでしょうか。

災害時、帰宅へのルートに

東京都との基本協定、年内締結へ

再質問 鈴木議員 大規模災害における広域避難を可能とする都県橋である（仮称）押切橋は、特に災害時における有効な橋梁として重要視されています。

最近、線状降水帯の記録的な大雨の影響により、全国各地で河川の氾濫が多発しています。

江戸川や旧江戸川等の堤防が決壊した場合、市川市や浦安市の河岸の低地帯でも大きな被害が想定されます。また、災害時には、東京から千葉県に向けての大量の帰宅困難者が生じることが懸念されています。このことは、まだ記憶に新しい東日本大震災発生時にお

きましても、すでに経験しているところです。近年の千葉県から都内への通勤通学者数は約71万人、うち市川市、浦安市からは都内へは約15万人が通っていると言われております。

そのため、災害時には、数少ない都県境の橋梁に人や車が集中し混乱が生じますのは、自明の理です。

こうしたことから、沿岸の事業主体である東京都におきましては、事業化に向けたスケジュール等、非常に高いポテンシャルを維持した力強い意思表示が都議会等でもこれまで示されてきています。

私は積極的な東京都と千葉県の温度差を少し感じています。

いまして、今般、千葉県側の都市計画が変更手続き中という非常に前向きな進捗状況に鑑み、今後の速やかな事業化について大変期待をしております。

しかしながら、旧江戸川渡河部の施工主体もいまだ協議中とかがついていることや、このコロナ禍という大変厳しい状況の中、東京都と千葉県という別々の行政間に橋を建設するという事業を円滑に進進していくためには、並大抵のスタンスでは難しいと考えています。

そこで早急で円滑な事業の進捗を図るために、どのように取り組んでいくのか、具体的なスケジュールも含め

て、（仮称）押切橋の基本協定の締結や都市計画の完了の見通しはどうかうかがいます。

県土整備部長 東京都との基本協定については、年内の締結を目指しており、都市計画変更の完了については、今年度内の完了を目指しております。

鈴木議員 押切橋の持ち合わせるポテンシャルを鑑みても、早期整備、早期供用開始は必須の事項です。

このため、是非とも千葉県が橋梁建設の施工主体となつて、積極的なスタンスを堅持しつつ、本事業を強力に推進していただきますよう強く、強く要望します。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

引き続き、早期に事業着手ができるよう、東京都や市川市と連携をしながら、積極的に取り組んでまいります。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

引き続き、早期に事業着手ができるよう、東京都や市川市と連携をしながら、積極的に取り組んでまいります。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

引き続き、早期に事業着手ができるよう、東京都や市川市と連携をしながら、積極的に取り組んでまいります。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

引き続き、早期に事業着手ができるよう、東京都や市川市と連携をしながら、積極的に取り組んでまいります。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

引き続き、早期に事業着手ができるよう、東京都や市川市と連携をしながら、積極的に取り組んでまいります。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

引き続き、早期に事業着手ができるよう、東京都や市川市と連携をしながら、積極的に取り組んでまいります。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

引き続き、早期に事業着手ができるよう、東京都や市川市と連携をしながら、積極的に取り組んでまいります。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

引き続き、早期に事業着手ができるよう、東京都や市川市と連携をしながら、積極的に取り組んでまいります。

現在、市川市と連携して都市計画変更の手続きを進めるとともに、事業化に向けて、共同事業者となる東京都と基本協定について協議を進めているところです。

（仮称）押切橋

都県交流活性化に一役



（仮称）押切橋の架橋予定地。対岸の東京方面を望む。